

巻 頭 言

高知リハビリテーション専門職大学
学長 宮 川 哲 夫

本学では、令和元年から令和4年度まで第4巻の高知リハビリテーション専門職大学紀要を発刊して参りましたが、令和5年度より新しい学術誌Professional Rehabilitation Scienceに生まれ変わりました。

紀要は大学・研究所などの定期刊行物のことで、学会誌・学術誌との相違があります。この大きな違いは、論文評価体制にあります。紀要は大学や研究所の内部評価ですが、学会誌・学術誌では、多数の大学や研究所に所属する研究者からの外部評価を経ています。論文評価は、多数の研究者から構成されている学会誌・学術誌のほうが高く評価され、評価の信頼性もより高くなります。それも国際的学会の評価が格段に高く評価されます。専門領域によっては、国際的学会誌に掲載された論文でなければ論文とは認められない傾向があり、文部科学省の教員調書の業績評価でも紀要は低く評価されます。近年では研究者は専攻領域を問わず、学会、それも国際的学会で研究報告し、その学会誌に論文が掲載される水準にまで研究を推進することが社会的に要請されてきています。

学術誌の刊行に伴い、投稿要綱の変更も行いました。投稿内容は理学療法・作業療法・言語聴覚学とその関連分野であったものを、医療・保健・福祉・健康・科学などの幅広い分野に関する研究としました。投稿資格は本学の教員・卒業生・本学との共同研究者の限定的なものから、投稿要綱にあう者であれば投稿可能としました。何よりも論文評価は、2名以上からなるその専門分野の査読者の意見に基づき、編集委員会内で決定することとし、筆者には査読結果に基づき原稿の修正を求めるとしました。そして、内容の要点が理解できるように800字以内の和文要旨と300語以内の英文サマリーを付し、それぞれの下に3～5個のキーワードを記すようにしました。なお、英文サマリーは、著者の責任で専門家のチェックを受け、投稿時には英文校正業者からの英文校正証明書を添付することとしました。また、論文執筆に当たっては、必ず倫理委員会の承認を得ることとし、対象者の匿名性、倫理的側面に十分配慮することとしています。これらのことを網羅することにより、社会的に評価の高い学術誌に生まれ変わります。

まだ、この学術誌がどのレベルの雑誌になるかはこれからの投稿論文の質の高さに負うことになりますが、国内外のダウンロード件数の増加や学術誌のインパクトファクターもつくような学術誌に発展していくことを期待しています。

学術誌Professional Rehabilitation Scienceのデザインも素敵な書体のデザインにしました。雑誌の略語はProf Rehabil Sciになります。ここに記念すべき第1巻を皆さまにお届け致します。

令和6年3月